

a journal

NAGOYAKINEMA
NEU

ナゴヤキネマ・
ノイ

11 2025
月号

〒464-0850
名古屋市千種区今池 1-6-13
今池スタービル 2F

Tel.052-734-7467
https://nk-neu.com

11月の定休日
火曜日
11/4・11・18・
25・12/2

毎月発行

RESERVATION

■各作品の10日前から上映1時間前までは公式サイトからプリペイドで席のご予約ができます。

■現金でのご購入、特別鑑賞券、ご招待券をご使用の方は、10日前から当日までの窓口受付(座席指定)をご利用ください。

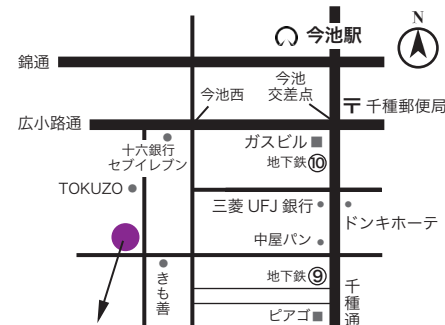
PLATFORM



公式サイト 公式 Facebook 公式 X 公式 Instagram
@nkn_2024 @nkn_2024

上映スケジュール表は2面をご覧ください

ACCESS



ナゴヤキネマ・ノイ

▶地下鉄今池駅⑨・⑩番出口より徒歩3分
▶今池スタービル2F(契約駐車場なし)

10.25(土)～11.14(金)

『女性の休日』

監督:パメラ・ホーガン
(2024年71分)



10.25(土)～11.14(金)

『TAKE ME SOMEWHERE NICE
ティク・ミー・サムウェア・ナイス』

監督:エナ・センディヤレヴィッチ
(2019年91分)



10.25(土)～11.7(金)

『こんな事があった』

監督:松井良彦(2025年130分)
●舞台挨拶:10/26(日) 松井監督



11.1(土)～14(金)

『サターン・
ボウリング』

監督:パトリシア・マズイ
(2022年114分)

11.1(土)～28(金) ジャン＝リュック・ゴダール『シナリオ』

《2部で1プログラム》

- シナリオ
- シナリオ:予告篇の構想
(2024年54分)



11.8(土)～14(金)

『モロカイ・バウンド』

監督:アリカ・テンガン (2024年112分)



11.8(土)～14(金)

『朝の火』

監督:広田智大
(2024年82分)



11.15(土)～

『バレンと小刀
時代をつなぐ浮世絵物語』

監督:松本貴子
(2025年109分)



11.15(土)～21(金)

『素敵すぎて
素敵すぎて
素敵すぎる』

監督:大河原恵
(2025年67分)



11.15(土)～21(金) ペルー映画祭 Vol.3 2025 《12作品・入替》④⑤⑦⑧⑩⑫はドキュメンタリー映画

- | | | |
|------------------------------|--|----------------------------|
| ①みどりの壁 (1970年116分) | ⑥ムーンハート (2021年80分) | ⑩ペルー、水と巡る道 (2022年88分) |
| ②午後の終わり (2016年81分) | ⑦Bunka- プンカ (2025年60分) | ⑪ママ・イレネ アンデスの癒し (2022年72分) |
| ③恐れられし肌 (2023年109分) | ⑧ワルテル先生とキビの教室 (2024年81分) | ⑫霧とおしょうゆ物語 (2021年90分) |
| ④UCHPA/ ウチュバ 再生の歌 (2025年86分) | ⑨私はタニア (2019年85分) | |
| ⑤罪なき罰のゆくえ (2023年89分) | ●トークイベント:11/15(土)①の上映後。松岡ひとみ(映画パーソナリティ) 長沢義文さん(ペルー映画祭主宰) | |



11.22(土)～
『大地に詩を
書くように』

監督:チョン・ダウン
(2024年113分)



11.22(土)～12.5(金) イメージフォーラム・フェスティバル 2025《名古屋会場》

《12プログラム・日替》※名古屋はF、I、K、Oの上映はありません。

- | | |
|------------------------------|---|
| A 東アジア・実験的・コンペティション1 (3作75分) | G “見えざる手”を見つめる (4作88分) |
| B 東アジア・実験的・コンペティション2 (4作77分) | H 『ムエタ、記憶と虐殺』 (1979年80分) |
| C 東アジア・実験的・コンペティション3 (4作68分) | J 『コレクティブ・モノローグ』 (2024年104分) |
| D 東アジア・実験的・コンペティション4 (4作66分) | L マシニマ特集 (6作86分) |
| E 東アジア・実験的・コンペティション5 (5作72分) | M 女性作家とドキュメンタリー
リトアニアのバイオニアたち (6作109分) |
| | N レカ・ブシ作品集+
ヨーロッパ・アートアニメーション特集 (6作67分) |
| | P 上岡文枝特集 (6作93分) |

戦後80年 内田也哉子ドキュメンタリーの旅
11.22(土)～28(金) 『戦争と対話』



企画・阿武野勝彦 《6作品・日替》

- | | |
|-----------------------|--|
| ①無言館・レクイエムから明日へ (96分) | |
| ②少年たちは戦場に送られた (73分) | |
| ③再会～平壤への遠い道～ (73分) | |
| ④遼太郎のひまわり (91分) | |
| ⑤78年目の和解 (88分) | |
| ⑥いのちと向き合う (97分) | |



11.29(土)～12.5(金)
『豹変と沈黙
日記でたどる
沖縄戦への道』

監督:原義和
(2025年104分)

●舞台挨拶:11/29(土)・30(日)
原監督

11.29(土)～
『はだしのゲンはまだ怒っている』

監督:込山正徳 (2025年90分)



上映作品提供: kinologue、クレプスキュールフィルム、イーテタイム、サンリスフィルム、ねこじゃらし、ムーリンプロダクション、マイナーリーグ、bold、Strenger、OCAWARI、ブエナワイカ、スモモ、イメージフォーラム、原義和、信越放送、ボレボレ東中野、アギイ

11 月上映スケジュール表

11/4・11・18・25・12/2(火)は休館です。

11/1(土)～7(金)

	11/1(土)	2(日)	3(月)	5(水)	6(木)	7(金)
11:00	『女性の休日』					
12:30	『サターン・ボウリング』					
14:40	ジャン＝リュック・ゴダール『シナリオ』					
15:50	『こんな事があった』					
18:15	『TAKE ME SOMEWHERE NICE テイク・ミー・サムウェア・ナイス』					
20:00	ジャン＝リュック・ゴダール『シナリオ』					

11/8(土)～14(金)

	11/8(土)	9(日)	10(月)	12(水)	13(木)	14(金)
11:00	『TAKE ME SOMEWHERE NICE テイク・ミー・サムウェア・ナイス』					
12:50	『女性の休日』					
14:20	ジャン＝リュック・ゴダール『シナリオ』					
15:30	『モロカイ・バウンド』					
17:40	『サターン・ボウリング』					
19:50	『朝の火』					

11/15(土)～21(金)

	11/15(土)	16(日)	17(月)	19(水)	20(木)	21(金)
11:00	ジャン＝リュック・ゴダール『シナリオ』					
12:15	『バレンと小刀 時代をつなぐ浮世絵物語』					
14:40	①みどりの壁+トーク	⑩ママ・イレネ アンデス	⑤罪なき罰のゆくえ	⑥ムーンハート	⑩ペルー、水と巡る道	②午後の終わり
16・17時台	17:20⑦Bunka	16:20④ウチュパ	16:30⑧フルテル先生	16:20⑨私はタニア	16:30⑫霧+おしょうゆ	16:20③恐れられし肌
18:30	ジャン＝リュック・ゴダール『シナリオ』					
19:40	『素敵すぎて 素敵すぎて 素敵すぎる』					

11/22(土)～28(金)

	11/22(土)	23(日)	24(月)	26(水)	27(木)	28(金)
11:00	『大地に詩を書くように』					
13:10	A 東アジアコンペ1	B 東アジアコンペ2	C 東アジアコンペ3	D 東アジアコンペ4	E 東アジアコンペ5	J『コレクティブ・モノローグ』
15:20	①無言館・レクイエム	②少年たちは戦場に	③再会～平壤への	④遼太郎のひまわり	⑤78 年目の和解	⑥いのちと向き合う
17:20	『バレンと小刀 時代をつなぐ浮世絵物語』					
19:30	ジャン＝リュック・ゴダール『シナリオ』					

11/29(土)～12/5(金)

	11/29(土)	30(日)	12/1(月)	3(水)	4(木)	5(金)
11:00	『豹変と沈黙 日記でたどる沖縄戦への道』					
13:10	『はだしのゲンはまだ怒っている』					
15:00	『バレンと小刀 時代をつなぐ浮世絵物語』					
17:10	『大地に詩を書くように』					
19:20	N レカ・ブシ作品集他	L マシニマ特集	H『ムエダ、記憶と虐殺』	P 上岡文枝特集	M 女性作家とドキュメンタリー	G “見えざる手”を見つめる

ご入場料金・入替制

一般 1800 円 大学生・会員 1400 円 高校生以下 1000 円 シニア(60 歳以上)1300 円
障がい者・会員(シニア・学生)1100 円 ペア割(2 名)2800 円
○会員サービスディ: 木曜日 会員・障がい者 1000 円・会員 1 名とのペア(2 名)2000 円
○ファーストディ 一般 1200 円 会員・障がい者 1000 円
●J=L・ゴダール『シナリオ』(均一料金)1700 円
●くペルー映画祭 通常料金、3 回券 3600 円
●くイメージフォーラム・フェスティバル 2025 4 回券 4000 円
一般 1500 円 シニア 1300 円 学生・会員・障がい者 1000 円

会員募集

お申込日から 1 年有効で 2000 円。
会員特典は当日ご料金の引きのみになります。
受付は劇場窓口にてお願いいたします。

『女性の休日』

1975 年 10 月 24 日、アイスランド女性の 90%が仕事や家事を休み女性の社会的役割を認知させた前代未聞のアクション「女性の休日」を、取材と記録映像で綴る爽快で抜群に楽しいドキュメンタリー映画。この国で育った最強アーティスト、ビョークが楽曲を提供。(71 分)

『TAKE ME SOMEWHERE NICE テイク・ミー・サムウェア・ナイス』

オランダ育ちのボスニア人アルマは母と自分を残して帰国した父の危篤を知り、ひとり祖国へ還る。出迎えたのは不愛想な従兄弟エミルと友人のデニス。感情を表さず、すれ違ったままで続く三人の旅を、映えまくる風景と光が包みこんでいく…。(91 分)

『こんな事があった』

震災から 10 年の福島。被曝で母を亡くし、原発職員だった父は罪の意識から除染作業員に志願し家を出て、アキラ(前田旺志郎)の家庭は崩壊した。窪塚愛流、井浦新共演。『追悼のざわめき』の松井良彦監督が 13 年もの現地リサーチと構想を重ねた渾身作。尖ったモノクローム映像から、復興の背後に潜む孤立感が立ち現れてくる。(130 分)

『サターン・ボウリング』

支配的で凶暴な父親の息子である異母兄弟、刑事のギョームと放浪者アルマンは父の遺産のボウリング場経営のために再会する……。アニエス・ヴァルダに映画を学んだマズイ監督は、連続殺人事件を描くフィルムノワールに壮絶な暴力のワンシーンをあえて創造することでフィクション/映画に挑戦したとも感じさせる衝撃作。(114 分)

ジャン＝リュック・ゴダール『シナリオ』

2022年9月、ジャン＝リュック・ゴダールは自死を遂げた。本作は、その2年前から進められた長編企画を元に行っている。モンタージュの構想を記した手帳やノートが何冊も作られたが、死の数日前になって、ゴダールは二部構成の映画を仕上げるように指示を出した。それに従って映像化されたのが『シナリオ [Scénarios]』であり、企画の構想をアシスタントに説明した様子を収めたのが、『シナリオ：予告篇の構想』（計54分）

『モロカイ・バウンド』

ハワイの中で最も観光化されずに今も伝統文化が息づくモロカイ島。とある事情で服役していたネイティヴ・ハワイアンのカイノアは、故郷モロカイを離れオアフで暮らすが、前科者のレッテルは彼を苦しめる。疎遠だった息子のジョナサンとの関係を回復することで出直しを図ろうとするが…。雄大な自然と歴史を感じつつ、人生を生き直す難しさを感じる一篇。（112分）

『朝の火』

青山真治監督に師事し、国内の映画賞受賞で評価される広田智大監督の長編デビュー作。ゴミ回収と処理を行う施設で働く祐一は同僚次郎の奇行をただ眺める日々を送っていた…。世の一隅で生じるリアルな摩擦から社会を視透す鋭い秀作。主題歌は寺尾紗穂「柿の歌」。（82分）

『バレンと小刀 時代をつなぐ浮世絵物語』

現在も浮世絵制作を続け、江戸の美意識と技術を継承するアダチ版画研究所。大河ドラマ「べらぼう」にも色彩監修など協力した現代の版元に密着取材し、葛飾北斎全作の復刻といった従来の技法の継承だけでなく、草間彌生やアントニー・ゴームリーのような現代アーティスト作品の版画化といった野心的な試みを踏まえ、『氷の花火 山口小夜子』の松本貴子監督が現代の職人の内面に入り込むように撮り上げる。（109分）

『素敵すぎて 素敵すぎて 素敵すぎる』

感性の合うボーイフレンド千歳が突然、見知らぬ女性と結婚?! パニくって婚礼に突入した春田（大河原恵 / 監督）は挙式を妨害したあげく…。なぜ恋は人をここまで追い込むのか。真実と幻影の狭間で空回りする妄執と自虐を大らかに描きつくす。勢いあり。痛く、切なくも笑っちゃう（67分）

ペルー映画祭 2025 12作品 / 入替

太平洋沿岸、アンデス山脈、アマゾン川流域と異なる地勢と文化をもつ南米ペルーの多様な映画作品を一挙上映。初公開時に米国で絶賛されたアルマンド・ロブレス・ゴドイの『みどりの壁』、政治と個人を描くジョエル・カレロ『午後の終わり』『恐れられし肌』、先住民を取材する優れたドキュメンタリー『罪なき罰のゆくえ』『ママ・イレネ アンデスの癒し』など。

『大地に詩を書くように』

韓国の造景家チョン・ヨンソン。1970年代から現在に至るまで、韓国の都市景観の彩りを作り上げてきた稀有な存在だ。都心のアアシス「仙遊島公園」や韓国初の生態系公園「汝矣島セッカ生生態系公園」など、韓国的な景観の未来を描き続けており、昨年はソウルの国立現代美術館で半年間もの特別展示が開催され、国際的な評価も高い。彼女が手がけた景観を眺めつつ、人工と自然の重なりについて考える貴重な時間。（113分）

イメージフォーラム・フェスティバル 2025 名古屋

12プログラム / 日替

映像アートの祭典 IFF から公募コンペ〈東アジア・エクスプリメンタル・コンペティション〉（審査員に五十嵐耕平監督も！）、招待部門〈映画と言葉-近く遠く〉では、シネマ・ノーヴォ（ブラジル語圏ニューシネマ）の旗手ルイ・ゲーハの未公開作『エムダ、記憶と虐殺』、動物と人のコミュニケーションを眼想するジェシカ・サラ・リンランド『コレクティブ・モノローグ』、ハンガリーのレカ・ブシほかヨーロッパアニメーション特集、など多彩な展開。

『豹変と沈黙 日記でたどる沖縄戦への道』

戦場で人間性を損なわれ、兵士は殺戮する“人間兵器”へと豹変し、戦後、戦場から戻った兵士の多くはその惨状を胸に秘めて沈黙の中に生きた。沖縄を拠点にドキュメンタリー番組の企画制作を行う原義和監督は、元兵士たちが残した日記の記述から、豹変と沈黙の前後を辿ろうと試みる。戦後80年に見るべき作品。（104分）

next arts 通信

横井照子ひなげし美術館

秋になると、恵那や中津川の栗のお菓子をいただいたり、手土産に求めたりすることがしばしば。恵那川上屋の手提げ袋や包装紙の栗やひなげしの花の絵は、よく目にしているが、これらを描いた画家の人生を知る人は多くはないだろう。

横井照子（1924-2020）は、スイスの首都ベルンに60年近く暮らした日本人画家。愛知県に生まれ1953年に渡米、カルフォルニア・スクール・オブ・アートに学んだ。やがてニューヨークに移り、アメリカ抽象表現主義の影響を受けつつも、母国の絵画や書の影響も反映しながら、自己の表現を追求した。

実は最近まで、横井の存在や作品を知らなかったのだが、遅ればせながら恵那の「横井照子ひなげし美術館」に訪れて、作品を実見することができた。恵那川上屋の鎌田社長が、若き日にスイスで出会った横井との縁を紡いだ稀有な施設なのだ。収集した横井照子の作品のために、一般社団法人を立ち上げて「栗里宿 恵那峡店」の敷地内に古民家を移築し、2004年に開館した美術館である。

横井は2020年にベルン美術館での回顧展を見届けて亡くなった。シングルマザーであり、外国人として生き抜いた、この女性アーティストの日本での研究や評価は途上にある。

【ムク】

無知の知

（その11）乾田直播（カンデンジカマキ）

昨年はコメ不足で騒動が起きた。本来なら主食のコメが不足する事態はあってはならない。農水省が長年行ってきた減反政策がそもその原因である。その結果、農業では生きていけない農家が生業を離れ、少子高齢化も起こり、今、日本の農業は危機的状況にある。それを口実に国は今、農業の大規模化と企業化に向けて「乾田直播稲作」を推進している。従来の稲作は水を張った田んぼに苗を植える作業から始まる複雑な仕事で大規模化に向かない。乾田直播は渴いた田んぼにドローンで種稲をばら撒き、肥料や農薬もドローンでばら撒く等、大規模化に向いている。中国電力は愛知県新城市で、(株) NEWGREEN と共同で乾田直播の実験を始めた。問題は、田の代掻きを行わないので雑草が生え易く大量の除草剤が必要になる。農業企業にはもってこいの農法だ。将来、かつて愛知果が断念した除草剤耐性イネが再び登場するかもしれない。また、直播は発芽率が不均等で成長のばらつきや種子が鳩に食われたりするのを防ぐ為に、種子を農業と鉄粉で覆うコーティング等の作業が要る。果たして上手く行くかどうかは分からない。それに、日本の稲作は山間地等の小規模が多く大規模化には向かない。小規模農家はますます稲作から離れるだろう。農業の企業化は国の未来を危うくする

(K)

戦後80年内田也哉子ドキュメンタリーの旅

『戦争と対話』 6作品 / 入替

長野県上田市の戦没画学生作品を集めた美術館「無言館」の共同館主、内田也哉子と旅する信越テレビの意欲的な企画。戦争をテーマにかつて制作されたドキュメンタリーを挟むように、内田也哉子と著名人が語りあうパートを組み合わせた連作。戦後80年を機に新たにに出会う過去と現在は、静かに未来を照らす。東海テレビドキュメンタリー劇場プロデューサー阿武野勝彦企画作品。

『はだしのゲンはまだ怒っている』

不朽の反戦漫画「はだしのゲン」。6歳で原爆の惨禍を体験した中沢啓治が、憤りと怒りを込めて1973年に少年ジャンプで連載を始めた作品は時代と国境を超えて、今も衝撃を与え続けています。しかし、一方で過激な描写を閲覧制限の理由にしたり、広島市の教育教材から消えるなど、近年も議論を巻き起こしています。「ゲン」をめぐる現在を、数々のドキュメンタリー番組を手掛けてきた込山正徳監督が追います。（90分）

パットと、みて、ポン！

夏の終わりはいつか？ これを書いている今日（10月9日）の最高気温は30度、最低気温は23度だ。このペースで行くと11月上旬まではTシャツ一枚で過ごせそうだ。今年は5月GWくらいからTシャツ姿なので半年間はその装いということになる。楽で良いのだが、かつての季節感は失われた。Tシャツが好きで、だいたい50着を着まわしている。したがって一着につきワンシーズンで3、4回しか着ないため結構長持ちする。20年くらい着ているものもある。博物館、美術館、ギャラリー、そして旅先の造り酒屋などで、面白いデザインを見つけるとつい買ってしまふ（服飾店で買うことはない）。最近は収納するところが無くなってきたので自粛しようと思うのだが、欲望には勝てず買ってしまふ。中には劇団のTシャツもある。現役のところも無くなったところもあるが、それぞれ観劇や手伝った思い出がついて回り、ボロボロになっても捨てられない。筆者は、これまで引越しを8回してきた。その度に書籍はバサバサと処分するのだが、なぜかTシャツだけは捨てられなかった。それほど好きなのか、何なのか？ もちろん書籍で捨てられないものもある。それらは、手に入れた時の思い出が強いもののように思う。言うならば自分の回想や思い出が強いものを手放したくないのかもしれない。当たり前か。つまるところ、人のアイデンティティというものは、個人の中にあるものではないということかな？ 「中」というより「間」にあるということかな？ 筆者と演劇の関係もソコにあるのかな？ なんのことやら。。。 (P)

ウニタ書店情報 (052-731-1380)

中国・南京市は名古屋市の友好姉妹都市であるが2012年、当時の市長・河村氏が、表敬訪問した南京市使節団に対して、「南京事件はなかったのではないか」というトンデモ発言をして以来、交流事業が10年以上も途絶えている。今年8月に現市長の広沢氏が交流再開への意欲を示し、訪中予定だった市議団に親書を託そうとしたが、中国側に拒否されてしまった。会見で南京事件については「国と同じく諸説ある」と述べては国も公式に認めているのに拘わらず、「敏感な問題には触れない」と曖昧な姿勢に終始した。これでは交流再開は望めないのは当然であろう。

同じ8月に刊行された『南京事件 新版』（岩波新書）は、28年前に刊行され、ロングセラーとなっている旧版に、その後の研究の進展や新しく発見された史料を踏まえて加筆増補した書である。著者の笠原十九司氏は、日中戦争の歴史研究を長らく継続してきたが、新版では、陸軍だけでなく、海軍航空隊・艦隊の作戦にも紙幅を割き、陸だけでなく空・海からの無差別攻撃の実相を明らかにしている。日本軍による略奪・殺戮・強姦・放火など、残虐行為・不法行為の詳細な記述には、残虐・凄惨という言葉しかない。

民間人の犠牲者が10数万から30万人とされる事実と誠実に向き合い、日中間の歴史認識の共有をめざす姿勢こそが交流再開の前提であろう。

いなかのじけん

ヌスットハギ

病氣して体力もままならないし、夏は暑いし、で庭の草も伸び放題、家は「浅茅か宿」と化している。牧野富太郎先生は「雑草という名の草はない。」と世間を叱ってますが、庭はその雑草という草だらけなんです。リハビリに散歩を勧められて近所を徘徊している。するとヤギのユキちゃんの散歩に出くわす。ユキちゃんの飼い主は仙人ヒゲのおじさんで、どちらがヤギか分らない時もあるが、実はフラーアレンジメントの先生らしい。「ヤギはねえ、クズの葉と、このヌスットハギ、実が服にひっつくやつが大好きでねえ。」と教えてくれる。改めて庭を眺めてみると、大発生しているのはそのヌスットハギではないか。ユキちゃん食べに来てくれないかなあ、とも思うが、「ヤギの行きたい所へ行かせてるだけなのでねえ。」とのことなので、わざわざ家には来ないだろう。こういう時は土産だ。散歩の前に庭のヌスットハギを摘んで草束にして出かける。果たして。食べる食べる、ムシヤムシヤムシヤ。次の日から、散歩のついでに草をあげる、じゃなくて草をあげるついでに散歩する、本末たかしの転倒だあ。歩いている途中でも、ああ、こにもヌスットハギが、こちらにはクズがはびこっているな、とユキちゃんの好物ばかりが目につくようになった。この草は何だろう、スイバも好きって言うけどこれ食べるかな、しかし知らない草は要注意だ、毒草ということもある。子供のころ家で飼ってたヤギは彼岸花を食べて死んだそうだから。雑草という草はない、ヤギのエサかそうでないか、だ。

